

令和4年度 環境で地域を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

## 成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓

活動団体名：天理市環境連絡協議会

活動地域：天理市

活動におけるテーマ

『エコシティ天理SDGsの推進』

# 天理市の概要

- ・人口 63,000人
- ・面積(全体) 8642ha
  - (耕地) 1640ha(20%)
  - (森林) 3315ha(40%)



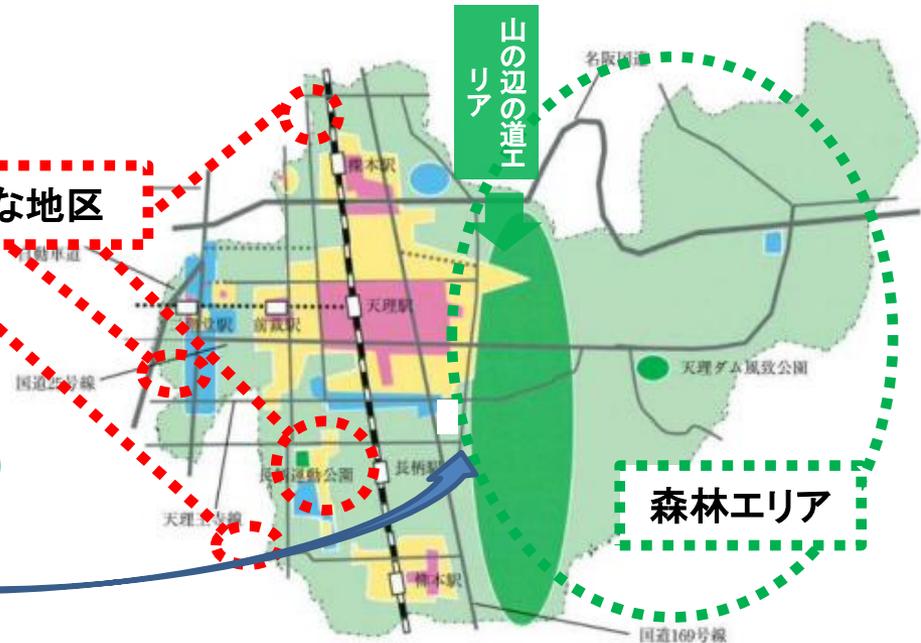
## <特徴>

- ・教育、スポーツ
- ・歴史、文化、宗教、豊かな自然
- ・山の辺の道(記録上日本最古の道)
- ・なら歴史芸術文化村
- ・ベッドタウン

農業が盛んな地区

山の辺の道  
リア

森林エリア



# 活動団体紹介 天理市環境連絡協議会の概要

- ・設立:天理市環境基本計画のもと、地域連携と協働の場として2015年2月に設立
- ・構成:市民、市民団体、事業者、学識経験者、天理市
- ・活動:天理の環境をより良い状態で次世代に引き継ぐこと目的に5つ部会で活動  
　　<緑の保全部会><ストップ温暖化部会><まちづくり・観光部会>  
　　<ごみ減量部会><環境教育部会>



落ち葉かき(肥料に活用)



布留川清掃(ホタルが棲息)



環境フォーラム



天理ダム視察(小水力発電)



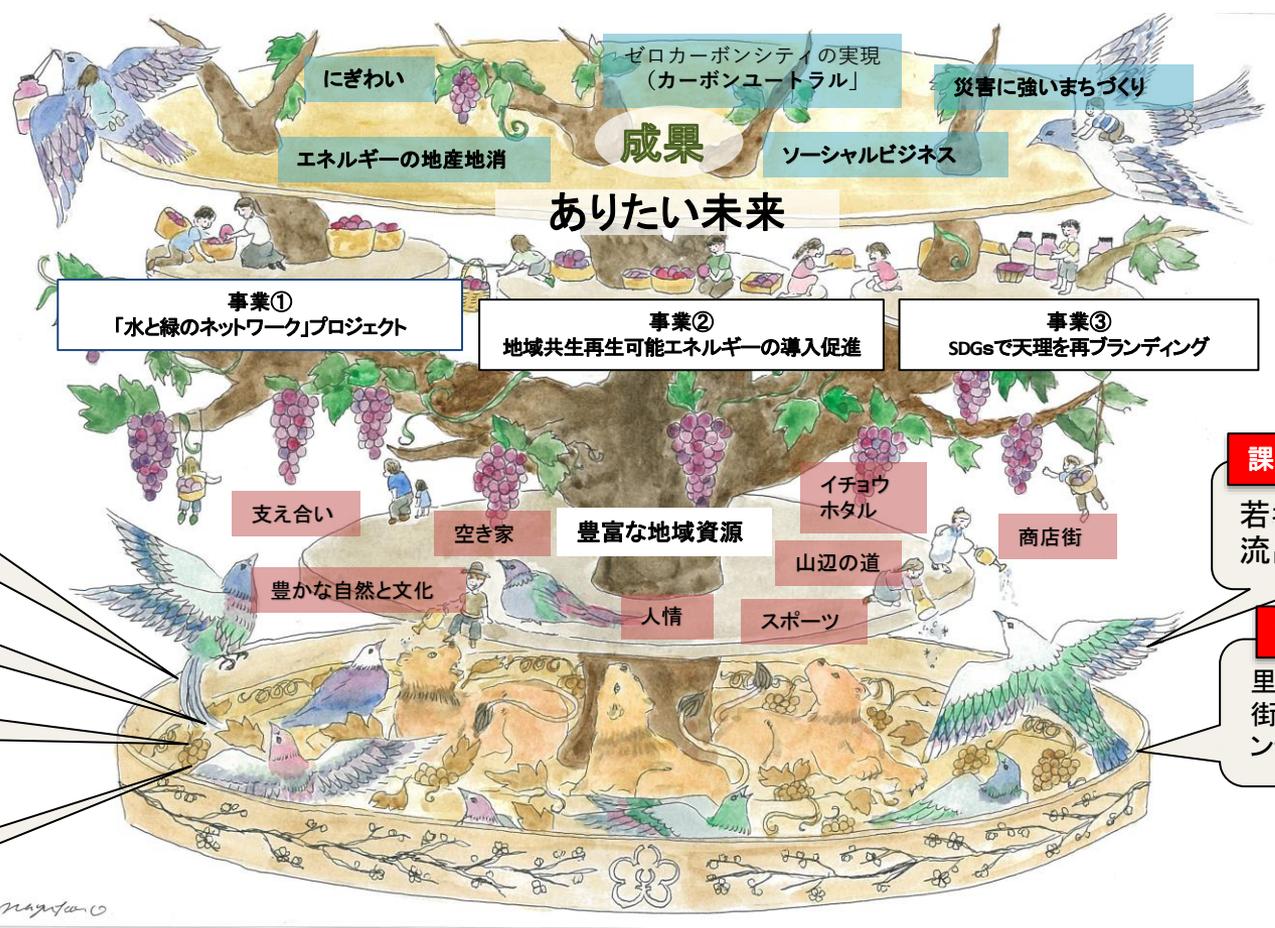
子ども工作教室(ソーラーランタン) 2

# エコシティ・天理 地域立体マンダラ図

サトの豊かさ  
これからも住みたいまち天理  
マチの魅力  
天理市第6次総合計画

地域循環共生圏  
エコシティ・天理

ありたい未来：市民や事業者が連携し、人々が愛着や生きがいを持ちながら、いつまでも安心して暮らせるまち



**課題**  
商店街の衰退と  
空き店舗対策

**課題**  
耕作放棄地・  
空き家対策

**課題**  
ゼロカーボン  
シティの実現

**課題**  
モビリティ

**課題**  
若者の市外  
流出超過

**課題**  
里山の荒廃、  
街路樹のメ  
ンテナンス

立体マンダラの底辺に据えたのは市内で出土した「海獣葡萄鏡」(8世紀)です。地域の歴史や文化に育まれて、いまの天理市があることから原点として捉えました。動き出した海獣や鳥たち、葡萄の木が豊かな実を突らせながら未来に伸びて、人々が日々の生活をしています。地域の取材をしてくれた大学生が描いてくれました。葡萄鏡の縁には天理市の市章と市の花「梅花」があらわれていることにも着目してください。

# 事業を通じての“変化”

天理市に関わる人や事業者が連携し、愛着や生きがいを持ちながら、いつまでも安心して暮らし続けられるまち

循環(各事業推進の相乗効果)

・都市空間や資源に磨きがかかり、経済的なメリットが期待できる

・ゼロカーボンの実現に向けた取組が進み、地域経済が向上する

・地域で活躍する人材が育ち、起業、雇用の創出につながる

・交流人口の拡大から移住・定住につながる

## 事業①

「水と緑のネットワーク」プロジェクト

### 事業成果

- 地域の自然を活かした新しい観光の開発
- モデルケースの構築 ○自然系環境人材の育成

### 取組

- ・山の辺の道エコミュージアム構想
- ・ホテル、街路樹などの資源を利用した集客産業
- ・SDGsの森づくり(里山保全、教育、健康)
- ・放置竹林の課題解決と竹の利活用
- ・環境教育

## 事業②

地域共生再生可能エネルギーの導入促進

### 事業成果

- 再エネ普及によるゼロカーボンの実現
- 地産地消エネルギー活用による地域経済向上

### 取組

- ・レジリエンス太陽光発電PPA事業を公共施設から実施(南中学校)
- ・営農型ソーラーと農業連携の導入ケーススタディ
- ・天理に適した小型バイオマス発電のモデル検討
- ・地域再エネ電力事業の可能性検討
- ・ふるさと納税 再エネ返礼品メニュー化検討

## 事業③

SDGsで天理を再ブランディング

### 事業成果

- 天理のまちが賑やかになる
- コミュニティや人のつながりの強化
- 天理で育まれた環境人材が日本全国や世界で活躍

### 取組

- ・まほろばエコロジー講座(環境人材をつくるための資格制度)
- ・おとなの大学祭(学びたい大人のためのワークショップやカフェ、講演会)
- ・山の辺の道の特産品をブランディング

## 自然資源

山の辺の道、歴史・文化、寺社、古墳群、里山、竹林、山中の作業道、ホテル、街路樹、耕作放棄地、綿・ひまわり・彼岸花、親里競技場

## 建物資源、道路資源

学校、公共施設、宗教施設、民間施設、教育施設、名阪国道、空家、商店街、天理ダム

## 取組

天理教ネットワーク、天理大学のスポーツ、人の温かさ、支え合う市民の互酬性、天理に愛着がある市外住民、新製造の仕組み、小水力発電技術、観光・商店街、教育コンテンツ

## 人材資源

市民、事業者、天理大学生、森林竹林所有者、林業技術者  
地元のNPO・NGO・事業者、天理市、環境連絡協議会、金融機関

## 事業推進に関する課題

- ・太陽光パネルの設置における建物探索、条件整備、老朽化対策
- ・メガソーラーの拡大による場所の悪化への対応
- ・間伐材の確保、木材を切り出す仕組みの構築
- ・再エネ導入の計画的・段階的戦略策定、経済効果スキームの構築
- ・再エネ普及につながるシステム、モデル地区の実現
- ・エネルギー費用の流出阻止

## 人材に関する課題

- ・青少年育成の場や機会の減少
- ・地元に着着する再エネ専門人材の確保と育成
- ・若者の市外流出防止
- ・仕事の確保、新たな雇用の創出
- ・新たな農業事業者の発掘
- ・ステークホルダーの合意形成

## 地域活性化に関する課題

- ・市民に対するSDGsの周知、理解
- ・商店街の衰退、賑わいの減少
- ・里山の荒廃、街路樹のメンテナンス・巨木化対応
- ・生物多様性の実現、野生動物との共存
- ・空家・空き店舗の対策
- ・交通手段の確保



# 地域のありたい未来実現のための これまでの歩み

## ③-2 SDGsの森づくり



竹ログハウス作り



タケノコ狩り

竹林保全と利用

里山保全と利用

シイタケ  
ケ  
ドングリ拾い

クラフトづくり



竹チップ・パウダーの利用

竹細工

環境教育の場  
(森の幼稚園など)

枯れ竹



虫取り

生ごみ発酵材



## 地域共生再エネのモデル事業、再エネ電力事業検討

1. 避難所公共施設にステークホルダー(コープエナジーなら)によるPPA事業でレジリエンス太陽光発電+蓄電池システムが実現 (天理市立南中学校)

2. 里山整備を兼ねた小型熱電併給バイオマス発電システムを福住地区でFS



3. 天理における営農型ソーラー導入可能性検討  
(路地、ハウスでスタディ)

太陽光400KWの下に  
キウイ栽培のFS



4. 天理における地域再エネ電力事業検討

(天理市ゼロカーボンシティの推進 + 天理の地域経済循環向上に貢献)

# 地域のありたい未来実現のための これまでの歩み

## おとなの大学祭(2022年11月19日)

### 概要

天理大学のキャンパスが最も美しい11月上旬に「食文化」+「観光」+「エコロジー」イベントを開催した。おとなが学ぶ機会を若者が支え、若者の起業家精神を養い、天理に愛着を持って、再度訪れてくれる人を増やすことをめざす。運営主体は大学生やステークホルダーとなる団体



錦秋の大学キャンパス



モルック・ヨガ・茶の湯などの学び



オープンカフェでのコミュニケーション

## まほろばエコロジー講座

環境に関わる各分野の専門家によるレクチャーおよびフィールドワークを15回を行い「まほろば環境市民」に認定。



# 現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

昨年度からのSH →



新たなSH、ワーキング  
参加組織、団体 →



- ・近畿財務局奈良事務所
- ・大和信用金庫
- ・南都銀行

あいおいニッセイ同和損保

<地域共生再エネ>

- ・ならコープ
- ・新宮エネルギー
- ・ダイガスエナジー
- ・関西電力送配電
- ・日本環境技研
- ・日本再生可能エネルギー機構

- ・コープエナジーなら(PPA太陽光)
- ・エグテック(地元再エネ設備会社)

- ・環境省 近畿地方環境事務所
- ・きんき環境館

環境市民ネット  
ワーク天理

①河川・緑地  
「水と緑の  
ネットワーク」

天理市役所 (環境政策課)  
天理市環境連絡協議会

②エネルギー  
「地域共生再生  
可能エネルギー」

③まちづくり  
「SDGsで天理市  
再ブランディ  
ング」

天理大学

- ・奈良ストップ温暖化の会
- ・ランドブレイン
- ・南都経済研究所

- ・谷林業
- ・大和森林管理協会
- ・山の辺の道ファンクラブ
- ・天理ラグビークラブ
- ・アラウンド・イノベーション

- ・GOフォレスト(森林整備起業家)
- ・森つくり奈良クラブ
- ・里山文庫

天理市役所  
総合政策課  
農林課

・農と福祉をつなぐ会  
(農業再生)

- ・山中農園
- ・天理市農業委員会

- ・天理市商工会
- ・フードバンク奈良
- ・インテリアコーディネーター協会  
(商店街再生、食活用)

・SDGsソーシャルデザイン協会

合同会社むら村  
(アプリ製作)

# 取り組みを通じた地域プラットフォームの変化

## ステークホルダーの多様化、主体的参画

キックオフ時点では10団体程度の参加であったが、地域外の専門家団体も参加いただき現在は30団体程度に増加。さらに今年度7つの活動テーマをステークホルダーが積極的に参画いただき実施することができた。

## ・地域の方々への広がり

SDGsの森づくりでは、市内外の団体、市民、高校生が活動に参加。地域共生再エネでは営農型太陽光発電導入と農業振興をめざし、天理市農業委員会のメンバーと意見交換できた。天理における食文化、観光、エコロジーの展開を図るため、天理大学キャンパスで初めて「おとなの大学祭」を開催。大学生、地域で食を手掛ける方々、エコロジー関係団体等が参加いただき、今後継続していく。また、環境関連知識と環境意識の向上をめざし、まほろばエコロジー講座を開催。今年は大学生を対象に行ったが今後は市民に広げていく。

## ・自治体関係部署への広がり

レジリエンス太陽光発電システムの導入、バイオマス発電FS、営農型太陽光発電導入検討で、天理市役所環境部署を通じ、総務、教育委員会、総合政策、農林部署が積極的に参画いただいた。

# 取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

## 成果

- ・多様なステークホルダーが参加いただき、地域循環共生圏づくりに活発な意見交換ができた。
- ・地域課題が整理でき、共通認識化できた。
- ・7つのプロジェクトテーマを遂行し、今後の方向性が見えてきた

## 課題

- ・プラットフォーム事業の試みが、地域での事業創造、事業化スキームの具体化。  
→モデル事業の実現
- ・ローカルSDGs、脱炭素推進を進める地域の中核人材、専門人材の発掘。  
ex. ・若者への環境教育と定着

# 活動における今後の展望

## ・水と緑のネットワーク

現存する最古の道である「山の辺の道」の自然、歴史文化遺産の情報が得られるアプリを制作、それを利用したエコミュージアムを創り活用する。

また、里山整備・保全をすすめ、竹細工、ログハウス作りや、星空観察など体験環境教育を実施する。

## ・天理に適した地域共生再エネの導入促進、地域再エネ電力の創設

天理市ゼロカーボンシティの推進と地域経済の向上を目指し、レジリエンス太陽光発電システムの拡大、農業継続につながる営農型ソーラーの推進や、里山バイオマス活用モデル具体化を目指す。また、再エネの地産地消をめざし、天理に適した地域再エネ電力事業を創設する。

## ・SDGSでまちづくり

福住の日本茶と山の辺のドライフルーツを合わせたお茶など、天理のブランディング商品開発や今年度初めて開催した天理大学キャンパスでの「おとなの大学祭」を継続、発展させる。

## ・環境人材の養成

エコシティ天理の実現には環境人材の養成が不可欠で、今年度は天理大学で学生を対象に「まほろばエコロジー講座」を開講したが、今後は、市民に広げていく。さらに学生たちを卒業後も環境に携わる人材として活躍するよう図りたい。